

発表：ウブルハンガイ県アルワイヘル市におけるスタンダード実践授業」

D. ドラムスレン（メルゲド総合学校）



<資料の補足>

- ・ 教材は、ウランバートル市 A チームが作成している教材を使っている。本当に良い教材。
- ・ スタンダード実践授業がどんなものか、最初は教師も学習者も理解できていなかったが、1年間やってきたので今年は学習者たちが慣れてきた。自分たちで勉強できるようになって来て、面白く楽しくできている。

スタンダード授業準備

- ・ 実践するクラスの保護者に、スタンダードや授業がどのように変わるかを説明する。保護者は日本語がわからないが応援してくれればそれが力になるため。
- ・ 他の外国語授業を見学して、その先生方と授業などについて相談した。それは非常に有益だった。

ポートフォリオの使い方

- ・ テレビニュースや、日本の方が来た時に質問や挨拶したことをポートフォリオに入れておく。
- ・ 自分で復習ができるのが利点。
- ・ ポートフォリオについて学習者たちに意見を聞いたところ、もっと小さいポートフォリオを使いたいという声もあった。今は全員分置く場所が教室になく、毎回日本語の授業があるときに持って来ているため、持ち運びしやすいもっと軽いものがあるという学習者もいる。
- ・ 絵を描いて入れるのが大好きになった。

評価

- ・ 自己評価は3段階。よくできた100%、できた80%、もうちょっと50%。
- ・ 学習者数が多くて大変だが、教師は授業中常に学習者の様子を見て回り、チェックするようにしている。

学習者の意見

- ・ 教師が見せたビデオについて絵を描いて、ポートフォリオに入れるのが楽しい。
- ・ 書くのが遅い学習者は聞き取り問題が難しい。

- ・教材の中に UB の地図があったが、それを身近な街（アルワイヘール）の地図に変えて授業を行った。モンゴル語で分かっているけど書いたり話したりするのが難しい。
- ・物語が好きで、物語について絵を描いて、日本語をモンゴル語に訳して覚えるのが楽しかった。

両親の意見

スタンダード実践以降、子どもが大きく変わったという声が保護者からよく聞かれた。たとえば、

- ・マナーや礼儀に気をつけるようになった。服の着方、人付き合いの仕方等。他にもマニキュアをしなくなったり、先生の机やいすをきれいにしたり、ごみをごみ箱にきちんと捨てるようになったりした。
- ・子供が楽しそうに勉強している。
- ・たくさん宿題があっても、まず日本語からするようになった。
- ・日常生活について、時折、日本語で会話するようになった。保護者が日本語教育について興味を持つようになり、保護者も習いたいと思うようになった。
- ・保護者からの要望の一つに、遊びながら勉強させてほしいという意見があった。遊びに日本語が入ったら、もっと自然に言葉が覚えられるのではないか、ただ机に座っているのはもったいない、という考え。

教師の意見

- ・毎回の授業では無理だが、月に 1 回でも、教師と学習者が友達のように遊んだり話したりする時間を増やしたいと思うようになった。
- ・昨年度は自分のスタイルを変えるのが難しく、教師中心の授業に戻っていたこともあったが、気が付いて直すことができるようになった。はやく教師中心の教授法から抜け出したい。
- ・地方の子供が日本語を勉強するのはいいことなので、これからもっと頑張らなければならない。

これからの課題

- ・いつも教師が教えるのではつまらない。時には学習者同士が教え合えるとわかりやすいしおもしろいのではないか。